# 図書館だより

2008年10月3日発行　第3号
名　寄　市　立　大　学
図書館運営・大学広報委員会
Eメール：library1@nayoro.ac.jp

# 秋だ！読書だ!!! 新書まつりだ!!!

2008年 第62回 読書週間標語
「おもわぬ出会いがありました」
10月27日（月）～11月9日（日）

コンパクトで手軽に読め、中身もしっかり詰まっている文庫・新書。ジャンルもいろいろあるので、おもわぬ出会いがあるかもね。（2005年以降刊行のものから選んでみました）

＜集英社新書：-集英社＞
◎ 福井健策　著『著作権とは何か』B021.2-F
◎ 岡嶋裕史　著『郵便と糸電話でわかるインターネットのしくみ』B547.4833-O
◎ 中山あゆみ　著『病院で死なないという選択』B494.5-N
◎ 樋口裕一　著『ホンモノの文章力　自分を売り込む技術』B816-H

＜ちくま新書：筑摩書房＞
◎ 茂木健一郎　著『「脳」整理法』B491.371-M
◎ 香山リカ　著『テレビの罠　コイズミ現象を読みとく』B699.8-K
◎ 高橋哲哉　著『靖国問題』B175.1-T
◎ 山平重樹　著『ヤクザに学ぶ組織論』B368.51-Y
◎ 伏木　亨　著『人間は脳で食べている』B491.377-F

＜岩波新書：岩波書店＞
◎ 筑紫哲也　著『スローライフ　緩急自在のすすめ』B304-C
◎ 興梠一郎　著『中国激流　13億のゆくえ』B302.22-K

＜中公新書＆中公新書ラクレ：中央公論新社＞
◎ 岩下明裕　著『北方領土問題　4でも0でも、2でもなく』B319.1038-I
◎ 酒井邦嘉　著『科学者という仕事　独創性はどのように生まれるか』B402.8-S
◎ 矢幡　洋　著『働こうとしない人たち　拒絶性と自己愛性』B141.93-Y
◎ 杉山幸丸　著『進化しすぎた日本人』B481.78-S

＜講談社現代新書：講談社＞
◎ 岡本　薫　著『日本を滅ぼす教育論議』B370.4-O
◎ 速水敏彦　著『他人を見下す若者たち』B371.47-H
◎ 井田徹治　著『サバがトロより高くなる日　危機に立つ世界の漁業資源』B663.6-I

＜PHP文庫：PHP研究所＞
◎ 諸富祥彦　著『どんな時も、人生には意味がある。フランクル心理学のメッセージ』B159-M

＜新潮新書：新潮社＞
◎ 鈴木輝一郎　著『もしも義経にケータイがあったなら』B289.1-S
◎ 竹内一郎　著『人は見た目が9割』B361.45-T
◎ 吉野貴晶　著『サザエさんと株価の関係行動ファイナンス入門』B338.155-Y

＜文春文庫：文芸春秋＞
◎ 土屋賢二　著『われ笑う、ゆえにわれあり』B104-T

＜角川oneテーマ21：角川書店＞
◎ 門倉貴史　著『人にいえない仕事はなぜ儲かるのか？』B330.4-K

など・・・。主に本館の「文庫・新書コーナー」にあります。

文書・新書は分類の数字の前に「B」が付記されています。

# この本を読もう！！

保健福祉学部教養教育部

塚本　智宏　先生より

今年の夏、コルチャック研究のためにポーランドに行って来た教養教育部：塚本智宏先生に、アウシュビッツや歴史教育の本を紹介していただきました。本学所蔵の本もありますので、是非、この機会に読んでみてください。

## ＜アウシュヴィッツと歴史教育など＞

①中谷剛著『アウシュヴィッツ博物館案内』凱旋社（2005 年）2000 円→234.074-N、塚本研究室
②中谷剛著『ホロコーストを次世代に伝える　-アウシュヴィッツ・ミュージアムのガイドとして-』岩波ブックレット 710、岩波書店（2007 年）480 円→209.74、本館、ブックレットコーナー
　①②は、今回アウシュヴィッツでガイドをお願いしたオフシェンツイム（アウシュビッツ）唯一の日本人ガイドの著作。
③熊谷徹著『ドイツは過去とどう向き合ってきたか』 高文研（2007 年）1400 円
　③は、最近読みました。戦後ドイツのアウシュビッツ・ホロコーストに対する姿勢がよくわかる書物。これと合わせて⑧を読むと最近できたというドイツベルリンのユダヤ博物館に行ってみたくなる（⑧以下、79p.）。
④アネット・ヴィヴィオルカ著、山本規雄訳『娘と話すアウシュビッツってなに？』現代企画室（2004 年）1000 円
⑤ティル・バスティアン著、石田他訳『アウシュヴィッツと＜アウシュヴィッツの嘘＞』白水Ｕブックス（2005 年）900 円
　④⑤アウシュビッツの概要を知る比較的手軽な本。
⑥ジャン-F・フォルジュ著、高橋武智訳『21 世紀の子どもたちに、アウシュヴィッツをいかに教えるか』作品社（2000）2400 円→372.35-F、塚本研究室、筆者はフランスの高校教員
⑦ブルッフフェルド・シュテファン、レヴィーン，ポール・A.・中村　綾乃著、高田ゆみ子訳『語り伝えよ、子どもたちに -ホロコーストを知る-』みすず書房（2002 年）→316.88-K、塚本研究室、高田研究室
　ナチスによるユダヤ人虐殺の歴史を若い世代が知らないことに危機感を抱き、スウェーデン政府が家庭に無償配布して話題を呼んだという。⑥⑦はいずれも、憲法や教育基本法の「改革」方向にずっと抗して言論活動を展開している高橋哲哉氏の解説がある。⑦で私ははじめてトレブリンカの全貌が見えた。他に日本語でトレブリンカについて記しているものが少ない。現地トレブリンカにいくとわかるがこの本で紹介されているスケッチ画が展示で利用されている。
⑧川喜田敦子著『ドイツの歴史教育』シリーズ・ドイツ現代、白水社（2005 年）→372.34-K、塚本研究室
⑨梶原衛ほか著『ワルシャワ通信　-日本人学校教師のポーランド体験-』彩流社（2004 年）→293.49-K、塚本研究室
　⑨4 年間のワルシャワ日本人学校教員のポーランド体験記であるが、可能な限りの数のユダヤ人収容所を見て回った報告が織り交ぜられている。日本人でこれだけ回った人は他にいるのだろうかと関心させられる。マイダネク・トレブリンカ・ベウジェツ・ヘウムノ・ソビブル・プワシュフ・グロス-ロゼン・シュトゥトホフ・アウシュヴィッツビルケナウの各収容所。このなかにはウッヂ収容所のことは出て来ないのですが、今回行ってきました。そこには“子ども専用収容所”がありました。そのことは⑩に出てきます。
　ちなみに現在、本の内容に関係ないが、この先生が務めるワルシャワ日本人学校の校長先生は、ついこの間まで、名寄近郊の智恵文の中学校の先生だった人。
⑩桝田武宗著『ポーランド子ども収容所　-戦争と子どもたち-』径書房（1989 年）1360 円
⑪岡崎貴子著『ポーランド：ポーランド語』ここ以外のどこかへ！旅の指さし会話帳 58、情報センター出版局（2004 年）1800 円が便利。
⑫渡辺克義著『ポーランド学を学ぶ人のために』世界思想社（2007 年）→234.9-W、塚本研究室
　以上の他、ポーランドに関心がある方、語学ではポーランド語を少しでもかじりたいという方、旅行者向けの本ですが、⑪があります。また、ポーランド入門書、ちょっと分厚いのですが⑫があります。歴史、文化、文学、音楽、映画･･･などジャンル別に章立てがあります。美術に関心のある方、この本の 11 章 「ポーランド美術史」を読んで、ポーランド国立美術館に行くことをおすすめします。

　本学図書館、研究室には、関連図書が他にも所蔵されています。「OPAC」ではキーワード、書名、著者名、分類などで検索することができます。VHS『世界史大系』、『映像でつづる 20 世紀世界の記録』、『ヤヌシュ・コルチャック』、DVD『戦場のピアニスト』などの映像資料もありますので、併せてご覧いただくとより理解が深まります。